

日本原子力学会 倫理委員会 (第 103 回)

議事要旨

1. 日 時 : 2018 年 4 月 23 日 (月) 13:30~18:00
2. 場 所 : 日本原子力学会事務局会議室
3. 出席者 : 大場委員長、三村副委員長、神谷幹事、伊藤委員、宇奈手委員、金山委員、菅原委員、出町委員、中野委員、中村委員、原田委員、福家委員 (以上、委員 12 名)
布目特別委員、北村オブザーバ
4. 資 料 :
 - 倫 103-1 : 第 102 回倫理委員会議事要旨(案)
 - 倫 103-2 : 企画セッションと研究会の中長期運営について
 - 倫 103-3-1 : 倫理委員会 2018 年春の年会企画セッションに係る準備実績
 - 倫 103-3-2 : 日本原子力学会倫理委員会 2018 年春の年会企画セッション 議事要旨
 - 倫 103-3-3 : 2018 春の年会 企画セッション アンケート集計
 - 倫 103-4 : 2018 年度上期・倫理研究会について (検討用メモ)
 - 倫 103-5 : 倫理委員会 2018 年秋の大会 企画セッションに係る企画・準備について (案)
 - 倫 103-6 : 最近の品質不正問題について
 - 倫 103-7 : 標準委員会における『標準の品質確保』活動に係る原子力学会で定めた倫理規程と行動の手引きに関する説明会について (講師派遣依頼)
 - 倫 103-8 : 倫理委員会次年度申し送り事項取りまとめのお願い
 - 倫 103-9 : 技術倫理シンポジウムにおけるテーマ提案のお願い

5. 議事概要 :

- (0) 大場委員長より、前回オブザーバ参加であった菅原氏について理事会で委員就任が承認され、今回から委員として参加している旨の紹介があった。

(1) 前回議事録の確認

神谷幹事から資料 103-1 により前回議事要旨 (案) が説明され、特に異議なく了承された。議事要旨に記載事項のうち、以下の状況が確認された。

- ・事務局会議室の倫理規程憲章の額については、最新版に差し替え済み。
- ・北陸電力からの本年度受託業務について、学会内の手続きは終了。
- ・技術士会からの原稿執筆依頼の件は、8 月号掲載となる予定 (原稿締切りは 5 月)。

(2) 倫理委員会活動計画、分担

神谷幹事から資料 103-2 により倫理委員会の中長期運営計画について説明があり、活動予定等について確認した。

- ・倫理研究会については原則として 2 回/年とし、春の年会・秋の大会での企画セッションの振り返りまたは倫理規程の浸透を目的としたワークショップ (WS) 等、開催時の状況に見合っ

たテーマを委員会で決定していく。

- ・本年 9 月頃から倫理規程の改訂スケジュール（2020 年 4 月改訂目途）を追加。今後、担当を決める必要あり。
- ・分担表には菅原委員を追記する。

(3) 2018 年春の年会 企画セッションの結果報告

神谷幹事から資料 103-3-1 により 2018 年春の年会企画セッションの実績報告について説明があった。また、宇奈手委員から資料 103-3-2 により同セッションの議事要旨について、中野委員から資料 103-3-3 により同セッションのアンケート集計の結果について各々説明があった。

- ・質問者が 1 名だけに偏ってしまった。反省として、出席していた倫理委員会委員から議論を主導するような質問、コメントをするべきであった。
- ・これまでの企画セッション及び倫理研究会を通じて各電力の安全文化に関する取組についての情報が得られてきたので、これらを整理した上で会員に還元していく必要がある。

(4) 倫理研究会について

金山委員から資料 103-4 により、2018 年度上期の倫理研究会の検討状況について説明があり、研究会の内容について議論した。本日の議論を踏まえ、引き続き検討することとした。

- ・実施時期は、運営計画では 6 月となっているが、8 月頃を目途に実施したい。
- ・案(1)は、春の企画セッションのフォローアップとして、「災害に備える倫理」に関するパネルディスカッション、再稼働が進んだプラントとそうではないプラントでのモチベーション維持等の問題について議論、等。
- ・案(2)は、倫理規程の浸透を目的とした事例集を用いた WS として、災害への「備え」という観点で事例 1~4 を使った WS、最近の品質不正問題について倫理規程の条項から議論、等。
- ・これまでの企画セッション及び倫理研究会で講演いただいた各電力の安全文化に関する取組を整理し、他分野での取組なども報告してもらい議論する場としてもよい。

(5) 2018 年秋の大会 企画セッションについて

伊藤委員から資料 103-5 により、2018 年秋の大会企画セッションの検討状況について、事前に各員から寄せられたコメントも含めて説明があり、企画セッションの内容について議論した。本日の議論を踏まえ、原子力機構の安全文化について議論することを中心に引き続き検討することとした。

- ・原子力に関する研究機関で安全文化に関する取組みを報告できるのは原子力機構だけではないか。
- ・電中研やメーカー研究所の取組みは、研究成果が安全性に影響を及ぼしうるという観点での話題提供してもらうことになるのではないか。
- ・これまでの倫理委員会の取組として各電力、大学（京大炉、近大炉）から報告いただいたところ。国内唯一の原子力研究機関である原子力機構からの報告をもとに研究機関の安全文化を議論することは、原子力学会として意義がある。また、会員の 1/3 が原子力機構の職員である原子力学会としても有意義である。
- ・日本の原子力界において原子力機構は大きな存在で、色んな意味で他への影響がある。これ

まで各電力の安全文化について講演いただいていたが、秋の大会では原子力機構からの講演を中心として、学会の場でお互い高め合えるようにしていきたい。

- ・原子力機構からは機構としての取組みと大洗燃研棟事故を踏まえた対応について報告してもらい、その報告を踏まえて安全文化に関する有識者からのコメントを受け、研究機関における安全文化について議論を深める場としてはどうか。

(6) 最近の品質不正問題等について

神谷幹事から資料 103-6 により、最近の品質不正問題等について、1 月以降の状況を中心に説明があり、本資料の活用等について議論した。

本件については引き続き検討することとし、あわせて、今回の D 社の不正の内容と倫理規程「行動の手引」との関連に係る考察と同様の整理を、三村副委員長が N 社、金山委員が J 社について行うこととした。

- ・ D 社の報告書から倫理規程「行動の手引」に反映できそうな事項が幾つかある。
例えば、1-3（リーダーシップの発揮）では特に「組織の運営に責任を有する会員」にとって重要ということを謳う必要性など。
- ・「行動の手引」は、品質不正問題の背景・原因・対策等に関連する内容が多いことが確認できる。

(7) その他

(7)-1 春の年会での発表事案について

大場委員長及び布目特別委員から、以下の紹介があった。

- ・春の年会において福島事故に関して事実誤認に基づく発表があり、その発表予稿に基づいた新聞報道がなされた。発表の際には座長等からの事実誤認の指摘に基づくやり取りがあったにも拘らず新聞報道は予稿ベースでの記事で配信されていること。
- ・関係者から学会に対して本件の扱いに関する問い合わせ等があり、学会として扱いを検討中である。

これを受けて、このような場合に対処する学会内のルールはないこと、事実誤認・思い込みに基づく発表という意味では研究者倫理に関わる問題であること等について意見交換を行った。

(7)-2 再稼働に係る調査、承認の事例集について

本日の報告はなく、次回以降とした。

(7)-3 標準委員会における倫理教育について

大場委員長から資料 103-7 により、標準委員会から依頼の「倫理規程と行動の手引に関する説明会（6 月 6 日）」の講師派遣について説明があり、引き受ける方向で神谷幹事と相談し、対応することとした。

(7)-4 倫理委員会引き継ぎ資料について

大場委員長から資料 103-8 により、新旧合同理事会での次年度への申し送り事項（倫理委員

会引き継ぎ資料)の作成について説明があり、神谷幹事と調整の上、昨年の資料をリバイスする形で作成することとした。

(7)-5 技術倫理シンポジウムにおけるテーマ提案について

中野委員から資料 103-9 により、11 月に開催予定の技術倫理シンポジウム(日本工学会技術倫理協議会)のテーマの提案について依頼があり、各自メール等で連絡することとした。

(7)-6 日本学術振興会先導的研究開発委員会「未来の原子力技術」について

中村委員から、3 月に実施された標記委員会について説明があった。

- ・分科会 1 (社会) と 2 (技術) があり、今回は合同の会議であった。社会科学系と技術系の委員と一緒に議論できること、無理にまとめようとしないで議論しているため、興味深い議論をしている。

(7)-7 HP の更新検討に係る状況について

宇奈手委員から倫理委員会 HP の更新についての検討状況について説明があり、今後の対応については引き続き検討することとした。

- ・倫理委員会 HP の更新には専門的な知識が必要であり、業者に見積依頼をしたところ高額であった。
- ・当面の措置として、倫理規程等を最新のものに更新、英訳版ページの削除等を行った。

6. 次 回 :

2018 年 6 月 19 日 (火) 13:30~17:30、日本原子力学会事務局会議室

以 上